

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料3-4

協議会名： 東浦町地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C 評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C 評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
知多乗合株式会社	長寿線 車両減価償却費等に係る国庫補助金の交付申請予定		A	「う・ら・ら」長寿線は、東浦町と大府市の拠点間を結ぶ路線であり、通勤通学、買物、通院等の日常生活の移動手段として利用されている。 起点の緒川駅東口のバス停においてJR武豊線、「う・ら・ら」の他路線及び知多バス「刈谷中部空港線」への乗り継ぎ、げんきの郷・あいち健康プラザ・長寿医療研究センターのバス停において大府市ふれあいバス及び知多バス「大府線」への乗り継ぎが可能になっており、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担った。	B 2024年度目標値 利用者数 56,100人 2024年度実績値 利用者数 49,420人 目標を達成できなかった理由 路線再編によって減便したが、そのことによって利用者数が一定数減少したと思われる。 ・輸送量 当該年度計画 15.5人 当該年度実績 10.6人 平均乗車密度 1.3人 運行回数 3,025回 ・収支率 当該年度計画 10.64% 当該年度実績 9.24%	「う・ら・ら」の路線・ダイヤ改変後の利用状況や利用者の声を把握し、必要に応じ適宜見直しを行う等、PDCAを継続的に実施し、より利便性の高い公共交通網の構築に繋げる。また、「乗り方教室」の実施や「公共交通パンフレット」の配付等、公共交通の啓発と利用促進に繋がる施策を、地域と連携して継続的に取り組む。今後も引き続き、協議会関係者が連携し、「乗り方教室」を積極的に実施するとともに、「時刻表」も活用し「う・ら・ら」の利用方法や利用することによりおでかけができる場所などを周知し、利用者への啓発と利用促進に努めたい。

知多乗合株式会社	刈谷線 車両減価償却費等に係る国庫補助金の交付申請予定		A 「う・ら・ら」刈谷線は、東浦町と刈谷市の拠点間を結ぶ路線であり、通勤通学、買物、通院等の日常生活の移動手段として利用されている。起点の緒川駅東口のバス停においてJR武豊線、「う・ら・ら」の他路線及び知多バス「刈谷中部空港線」への乗り継ぎ、刈谷豊田総合病院のバス停においてへ刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」及び高浜市内循環バス「いきいき号」の乗り継ぎ、終点の刈谷駅南口のバス停において JR 東海道本線、名鉄三河線及び刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」への乗り継ぎが可能になっており、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担った。	A 2024年度目標値 利用者数 33,150人 2024年度実績値 利用者数 35,237人 ・輸送量 当該年度計画 17.9人 当該年度実績 14.4人 平均乗車密度 2.1人 運行回数 2,541回 ・収支率 当該年度計画 11.80% 当該年度実績 10.08%	「う・ら・ら」の路線・ダイヤ改変後の利用状況や利用者の声を把握し、必要に応じ適宜見直しを行う等、PDCAを継続的に実施し、より利便性の高い公共交通網の構築に繋げる。また、「乗り方教室」の実施や「公共交通パンフレット」の配付等、公共交通の啓発と利用促進に繋がる施策を、地域と連携して継続的に取り組む。今後も引き続き、協議会関係者が連携し、「乗り方教室」を積極的に実施するとともに、「時刻表」も活用し「う・ら・ら」の利用方法や利用することによりおでかけができる場所などを周知し、利用者への啓発と利用促進に努めたい。
知多乗合株式会社	藤江線 車両減価償却費等に係る国庫補助金の交付申請予定		A 「う・ら・ら」藤江線は、東浦町と知多市・阿久比町の拠点間を結ぶ路線であり、通勤通学、買物、通院等の日常生活の移動手段を担う。起点の緒川駅東口のバス停において JR 武豊線、「う・ら・ら」の他路線及び知多バス「刈谷中部空港線」への乗り継ぎ、終点の巽ヶ丘駅のバス停において名鉄河和線、知多バス東ヶ丘団地線、知多市コミュニティ交通あいあいバス及び阿久比町循環バス「アグピー号」への乗り継ぎが可能になっており、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担った。	A 2024年度目標値 利用者数 73,950人 2024年度実績値 利用者数 76,028人 ・輸送量 当該年度計画 29.7人 当該年度実績 19.2人 平均乗車密度 3.1人 運行回数 2,299回 ・収支率 当該年度計画 14.49% 当該年度実績 10.19%	「う・ら・ら」の路線・ダイヤ改変後の利用状況や利用者の声を把握し、必要に応じ適宜見直しを行う等、PDCAを継続的に実施し、より利便性の高い公共交通網の構築に繋げる。 <b>特に、路線再編により新たに巽ヶ丘駅に乗り入れたことで、利便性が高まったことを周知したい。</b> また、「乗り方教室」の実施や「公共交通パンフレット」の配付等、公共交通の啓発と利用促進に繋がる施策を、地域と連携して継続的に取り組む。今後も引き続き、協議会関係者が連携し、「乗り方教室」を積極的に実施するとともに、「時刻表」も活用し「う・ら・ら」の利用方法や利用することによりおでかけができる場所などを周知し、利用者への啓発と利用促進に努めたい。

<p>知多乗合株式会社</p>	<p>新田線 車両減価償却費等に係る国庫補助金の交付申請予定</p>		<p>A 「う・ら・ら」新田線は、東浦町と知多市・阿久比町の拠点間を結ぶ路線であり、通勤通学、買物、通院等の日常生活行動での移動手段を担う。起点の緒川駅東口のバス停において JR 武豊線、「う・ら・ら」の他路線及び知多バス「刈谷中部空港線」への乗り継ぎ、経由地の知北平和公園のバス停において大府市ふれあいバス及び東海市内循環バスらんらんバスへの乗り継ぎ、終点の巽ヶ丘駅のバス停において名鉄河和線、知多市コミュニティ交通あいあいバス及び阿久比町循環バス「アグピー号」への乗り継ぎが可能になっており、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担った。</p>	<p>B 2024年度目標値 利用者数 81,600人 2024年度実績値 利用者数 69,845人 目標を達成できなかった理由 路線再編前に目標値を設定したが、路線再編によって実績値との間に大きな差が生じた。今後の実績値に応じて最終目標値の改定を視野に入れる。 ・輸送量 当該年度計画 30.8人 当該年度実績 15.8人 平均乗車密度 1.8人 運行回数 3,140回 ・収支率 当該年度計画 17.74% 当該年度実績 7.94%</p>	<p>「う・ら・ら」の路線・ダイヤ改変後の利用状況や利用者の声を把握し、必要に応じ適宜見直しを行う等、PDCAを継続的に実施し、より利便性の高い公共交通網の構築に繋げる。特に、<b>路線再編により新たに巽ヶ丘駅や知北平和公園に乗り入れたことで、利便性が高まったことを周知したい。</b>また、「乗り方教室」の実施や「公共交通パンフレット」の配付等、公共交通の啓発と利用促進に繋がる施策を、地域と連携して継続的に取り組む。今後も引き続き、協議会関係者が連携し、「乗り方教室」を積極的に実施するとともに、「時刻表」も活用し「う・ら・ら」の利用方法や利用することによりおでかけができる場所などを周知し、利用者への啓発と利用促進に努めたい。</p>
-----------------	--	--	---	--	--

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 東浦町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
知多乗合株式会社	藤江線		A 「う・ら・ら」藤江線は、東浦町と知多市・阿久比町の拠点間を結ぶ路線であり、通勤通学、買物、通院等の日常生活の移動手段を担う。起点の緒川駅東口のバス停においてJR武豊線、「う・ら・ら」の他路線及び知多バス「刈谷中部空港線」への乗り継ぎ、終点の巽ヶ丘駅のバス停において名鉄河和線、知多バス東ヶ丘団地線、知多市コミュニティ交通 あいあいバス及び阿久比町循環バス「アグビー号」への乗り継ぎが可能になっており、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担った。 また、「う・ら・ら」藤江線の一部系統は、主系統を補完するとともに、新田線その他の系統に接続し、これらに乗り継ぐための役割を果たした。	A 2024年度目標値 利用者数 73,950人 2024年度実績値 利用者数 76,028人	「う・ら・ら」の路線・ダイヤ改変後の利用状況や利用者の声を把握し、必要に応じ適宜見直しを行う等、PDCAを継続的に実施し、より利便性の高い公共交通網の構築に繋げる。また、「乗り方教室」の実施や「公共交通パンフレット」の配付等、公共交通の啓発と利用促進に繋がる施策を、地域と連携して継続的に取り組む。今後も引き続き、協議会関係者が連携し、「乗り方教室」を積極的に実施するとともに、「時刻表」も活用し「う・ら・ら」の利用方法や利用することによりおでかけができる場所などを周知し、利用者への啓発と利用促進に努めたい。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和 年 月 日

協議会名:

①事業の結果概要	④事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は 地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価 【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

令和 年 月 日

協議会名:東浦町地域公共交通会議

①事業の結果概要	④事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価 【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割等を記載。】
<b>【事業内容】</b> ・「乗り方教室」の開催。子どもや高齢者を中心に、保育園や地域の高齢者サロン等で時刻表の読み方やバスの乗り方に関する勉強会を行う。この際に実車を用いて、乗務員から運賃の支払い方や乗車時のマナー等を学ぶ。 ・「時刻表」の作成。「時刻表」には、①路線ごとの運行時間帯②路線図③バスの乗り方の説明④ご利用案内(運賃、定期券・回数券の案内、運行日等)を掲載する。  <b>【結果概要】</b> ・2025年度は、7月25日に社会福祉協議会及びバス車庫ナイトツアーで「乗り方教室」を実施した。また、11月8日には、産業まつりにてブースを設けて「乗り方教室」を実施し、参加者には啓発用ステッカーを配布した。	A ・「乗り方教室」については、予定通り事業を実施している。7月25日に社会福祉協議会及びバス車庫ナイトツアーで「乗り方教室」を実施。 また、11月8日には、産業まつりにてブースを設けて「乗り方教室」を実施し、「う・ら・ら」車両を用い、試乗していただいた来場者に、乗り方やICカード読み取り機の使用法等を案内するとともに、参加者には啓発用ステッカーを配布した。今後も「う・ら・ら」を身近に感じていただけるよう、車両を用いた「乗り方教室」を実施していく。 ・「時刻表」については、2026年3月までに発行できるよう、現在作成中である。	2024年10月のダイヤ改正により、「う・ら・ら」は名鉄翼ヶ丘駅や知北平和公園に新たに乗り入れを行い、運賃支払い方法としてICカードを導入した。また、緒川駅東口からの最終便の発車時間を延長した。  「乗り方教室」の際、名鉄翼ヶ丘駅への乗り入れについては認知している方が多く、便利になったとの声をいただいたが、知北平和公園への乗り入れについてはあまり認知している方がいなかった。また、ICカードを所持している方が多く見受けられ、「う・ら・ら」でICカードで運賃を支払う方が徐々に増加している。「時刻表」の作成にあたっては、上記を踏まえ、「う・ら・ら」が便利になったポイントが利用者に伝わるように工夫したい。  今後も引き続き、協議会関係者が連携し、「乗り方教室」を積極的に実施するとともに、「時刻表」も活用し「う・ら・ら」の利用方法や利用することによりおでかけができる場所などを周知し、利用者への啓発と利用促進に努めたい。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	東浦町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>東浦町においては、名古屋市へ通じる広域幹線である鉄道(JR武豊線・名鉄河和線)を軸に、町内から大府市及び刈谷市等の近隣市町までを広範に路線バス(知多バス「大府線」、「大府循環線」、「東ヶ丘団地線」)、コミュニティバス(東浦町運行バス「う・ら・ら」)によって構成される公共交通機関網が広がっている。</p> <p>これらの公共交通については、大府市及び刈谷市の総合病院、名鉄巽ヶ丘駅等が当町民の日常生活機能を担う中で、東浦町運行バス「う・ら・ら」の長寿線、刈谷線、藤江線及び新田線等の地域内幹線が近隣市町に向かう数少ない手段として、車を運転できない高齢者等を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。</p> <p>しかしながら、人口減少と自家用車の普及等により、当町の公共交通機関の利用者は減少を続け、収支悪化による行政負担の増加をはじめ、運行に様々な問題が発生している。</p> <p>また一部地域では、午前8時台に緒川駅方面に向かう便がなかったり、地域内幹線間の乗り継ぎが不十分であったり、住民に不便を強いている状況にある。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、東浦町運行バス「う・ら・ら」の「長寿線」、「刈谷線」、「藤江線」、「新田線」を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	東浦町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>東浦町においては、名古屋市へ通じる広域幹線である鉄道(JR武豊線・名鉄河和線)を軸に、町内から大府市及び刈谷市等の近隣市町までを広範に路線バス(知多バス「大府線」、「大府循環線」、「東ヶ丘団地線」)、コミュニティバス(東浦町運行バス「う・ら・ら」)によって構成される公共交通機関網が広がっている。</p> <p>これらの公共交通については、大府市及び刈谷市の総合病院、名鉄巽ヶ丘駅等が当町民の日常生活機能を担う中で、東浦町運行バス「う・ら・ら」の長寿線、刈谷線、藤江線及び新田線等の地域内幹線が近隣市町に向かう数少ない手段として、車を運転できない高齢者等を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。</p> <p>また、この地域内幹線に通じる東浦町運行バス「う・ら・ら」の藤江線(東浦駅～巽ヶ丘駅)が支線の役割を果たしている。</p> <p>しかしながら、人口減少と自家用車の普及等により、当町の公共交通機関の利用者は減少を続け、収支悪化による行政負担の増加をはじめ、運行に様々な問題が発生している。</p> <p>また一部地域では、午前8時台に緒川駅方面に向かう便がなかったり、地域内幹線間の乗り継ぎが不十分であったり、住民に不便を強いている状況にある。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、東浦町運行バス「う・ら・ら」の「藤江線」を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	東浦町地域公共交通会議
評価対象事業名:	利便増進計画推進事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>地域公共交通が担うべき役割は、移動制約者(高齢者・障がい者・妊産婦・子ども等)の移動手段を確保することはもとより、外出したくなる仕掛けづくりによる交流の活発化、まちのにぎわいの創出、高齢者の運転免許自主返納促進への協力、さらに健康増進、コンパクトシティの実現、脱炭素社会への対応といった町の政策への貢献等、多面的なものが求められている。コンパクトなまちづくりとして、町運行バス「う・ら・ら」の充実などを図り、JRや名鉄の鉄道駅やバス停周辺を中心に、住む人や働く人が移動しやすく暮らしやすいまちづくりを進めることとしている。</p> <p>そこで当会議では、移動しやすく交流できるまちを目指して、公共交通の利便性向上を図ることとし、2024年度に、「東浦町地域公共交通利便増進実施計画」を策定、2024年10月の「う・ら・ら」の大幅な路線とダイヤの見直しを実施するとともに、名鉄翼ヶ丘駅や知北平和公園への乗り入れ、ICカードの導入などを開始した。</p> <p>また、地域の方に「う・ら・ら」に親しみをもってもらい、より便利に利用してもらうため、地域公共交通利便増進事業に関連して実施する事業として「う・ら・ら」の回数券を民間バス、タクシーで金券として使用できる共通利用の実施、「う・ら・ら」の他路線へ無料で乗り継ぐことができる乗継券の発行、バスロケーションシステムによる運行状況の発信等を進めることとしており、2025年度は、利便増進計画推進事業として、路線再編等を反映した「時刻表」を積極的に配布するとともに、「う・ら・ら」の「乗り方教室」を開催することとしている。</p>